

「瑞穂町多摩都市モノレール新駅周辺における産業近代化拠点の形成に向けたまちづくり計画（素案）」に対する住民意見への回答（案）

	意見	回答
1	<p>他市事例をヒントにした「道路網と商業の相乗効果」の最大化</p> <p>意見：日野市ではモノレール沿線よりも、国道20号バイパス沿いに魅力的な大型店が集まり、経済が活性化している実態があります。また、立川市の「ららぽーと立飛」周辺も、公共交通だけでなく、広域からの車客を吸収することで賑わいを生んでいます。瑞穂町も、新青梅街道の拡張を「千載一遇のチャンス」と捉え、モノレール開業を待たずとも車で人が集まる「ロードサイドの商業・サービス機能」を計画の主軸に据えることを計画に入れることはいかがでしょうか。モノレール新駅という「点」の魅力に加え、同時に進められる新青梅街道の拡張という「線」のメリット、瑞穂町という交通の要衝を「面」として最大限に活かしたまちづくりが可能になると期待しております。公共交通と広域道路網が補完し合うことで、モノレール開業前から、また開業後も長く愛される「ロードサイドの商業・サービス機能」を計画の重要な柱として検討していただければ幸いです。</p> <p>理由：瑞穂町はもともと交通の要衝であり、車でのアクセス性は町が持つ最大の強みの一つです。新駅だけに頼らず、拡張される都道沿いに「思わず立ち寄りたくなる</p>	<p>本計画は、「多摩都市モノレール延伸を契機とした瑞穂町まちづくり基本計画」の（仮称）No.6駅周辺のまちづくり構想における産業近代化拠点整備計画のうち、イノベーション創出ゾーン、産業育成ゾーン、農用地活用ゾーンについて要件等を定めるものです。</p> <p>産業近代化拠点整備計画では、沿道商業業務地区として、新青梅街道に面する側にロードサイド型飲食店舗等の立地誘導を図ることとしています。</p> <p>また、基本計画では、農産物販売等による新たな農業振興のための拠点や、No.6駅と町内各地区とのアクセス利便性を確保するための交通結節点の整備を構想しています。これらも踏まえ、土地利用を検討していきます。</p>

	<p>空間」を併設することで、通過する人々を町に呼び込み、日常的な賑わいと持続可能な経済の循環がより確固たるものになると考えるからです。</p>	
2	<p>「水耕栽培×体験農園」による、誰もがワクワクする体験拠点の創出</p> <p>意見：素案に掲げられた「スマート農業」の構想をさらに身近なものにするために、令和7年12月議会でも議員からの一般質問にあった「1本の苗から1000個収穫できるトマト」のような、最新の水耕栽培技術を体験できる町民・都民農園の開放の提案はいかがでしょうか。土を使わず管理負担の少ない「ライト感覚」な農業体験は、近隣都市からも家族連れを惹きつける「瑞穂ならではの夢の施設」になると確信しています。</p> <p>理由：「インキュベーション（育成）」という先進的な概念を、瑞穂農芸高校の生徒さんや東京都農林総合研究センターの専門家と連携した「目に見える成功体験」として具体化することで、次世代を担う子どもたちが農業の未来に触れ、町のブランド価値が対外的にも大きく高まることが期待できるためです。</p>	<p>本計画において、リーディング事業として、スマート農業推進事業を位置付けています。</p> <p>スマート農業推進事業は、環境制御による生産性の向上、DX化の促進等、スマート農業の実装拠点の役割を担い、技術やサービスに関するショーケースの役割となることをイメージしています。また、体験農園の要素も取り入れ、農業体験を通じて、農業への興味、ひいては、農業等関連産業への就業に繋がることを目指していきます。</p>
3	<p>「防災道の駅」による瑞穂ブランドの集約と安心の提供</p> <p>意見：瑞穂町の立地を考えると、国道16号線、新青梅街道、そして圏央道など、交通の要衝となっています。この利便性をさらに高めるため、広い駐車場を備えた「防災道の駅」のような機能がある施設設置をご検討ください。現在、町内に点在している「東京狭山茶」や「シ</p>	<p>本計画は、「多摩都市モノレール延伸を契機とした瑞穂町まちづくり基本計画（以下、基本計画という。）」に基づき策定するものです。基本計画は、多摩都市モノレール延伸の効果を最大限に生かすため策定したもので、広い駐車場を備えた道の駅については、検討していません。また、基本計画では、農産物販売等による新たな農業振興のための拠点</p>

	<p>クラメン」等の素晴らしい特産物を一堂に会する拠点ができれば、瑞穂ブランドの発信力は飛躍的に高まります。また、横田基地との近接性を活かした広域防災拠点としての役割も、町に大きな安心感をもたらすと期待しています。</p> <p>理由：人が集まる場所には、地域の誇りである産品を手にとれる場が欠かせません。道路拡張に合わせて、物流と観光、そして防災が融合した拠点をすることで、来訪者の利便性が向上するだけでなく、災害時にも強い、瑞穂町独自の逞しいまちづくりが実現できるからです。</p>	<p>や、No. 6 駅と町内各地区とのアクセス利便性を確保するための交通結節点の整備を構想しています。これらも踏まえ、土地利用を検討していきます。</p> <p>なお、特産物の拠点については、基本計画の農用地活用ゾーンにおいて「新たな農業振興のための拠点（農産物販売等）」を位置付けており、みずほブランドを含め、瑞穂町の特産品や農産物に触れ合える施設として検討します。</p>
4	<p>「若者が主役となる、次世代育成・オープンラボ機能」の強化</p> <p>意見：計画案にある「ビジネス経営支援」や「HUB 機能」において、町内唯一の高校である瑞穂農芸高校の生徒さんや、近隣大学の学生が自由に活用できる「次世代オープンラボ（公開実験場）」の設置はいかがでしょうか。若者が最新の 3D プリンタやスマート農業設備を使い、企業と一緒に新製品を試作できるような場があれば、町全体が「新しい挑戦が生まれるキャンパス」のような活気に包まれると期待しています。</p> <p>理由：産業の近代化において最も大切なのは、それを使う「人」の育成です。専門性の高い瑞穂農芸高校という町の財産を計画の核に据え、若者が「卒業後もこの町で挑戦したい」と思える環境を作ることで、50 年先も現</p>	<p>本計画は、「多摩都市モノレール延伸を契機とした瑞穂町まちづくり基本計画」に基づくものですが、産業近代化拠点については、町の持続可能性を高めるとともに、多摩地域全体の発展に寄与するものと位置付けています。</p> <p>その上で、「ビジネス経営支援」や「HUB 機能」については、意欲がある方を幅広く受け入れ、スタートアップやインキュベーションに資する活用を想定しています。</p> <p>そのため、意見いただいた瑞穂農芸高校や近隣大学を含め、多くの次世代を担う若者を含め利用しやすい施設となるように整備をしていく予定です。</p>

	<p>役で活躍する産業人材を町自ら育むことができるからです。</p>	
5	<p>『武蔵野の散歩道』と調和する、公園のような産業拠点」の形成</p> <p>意見：国木田独歩が描いた「武蔵野」の原風景を現代に再現し、拠点全体を「雑木林の中に施設が点在するような、瑞穂町の平地林を再現した森のような産業空間」として整備することを提案します。コンクリートやアスファルトに囲まれた工業団地ではなく、既存の樹木を活かした遊歩道や、狭山茶の茶畑が織りなす縞模様を 景観のアクセントに取り入れることで、働く人や訪れる人が独歩の愛した「散策の楽しみ」を味わえる空間にしてはいかがでしょうか。新駅からのアプローチに、五感で季節を感じられる「緑の回廊」を設けることで、近代化拠点そのものが町民の憩いの場となり、歴史的な景観を次世代へ継承するシンボルとなります。</p> <p>理由：独歩の『武蔵野』は、自然と人間が共生する美しさを称えています。スマート農業のガラスハウスや近代的なオフィスが、武蔵野の象徴であるクヌギやコナラの林と共存する姿は、瑞穂町にしか作れない唯一無二のブランドとなります。これが「癒やし」と「創造性」を育む環境となり、IT企業やスタートアップ、そして観光客を惹きつける強い魅力になるからです。近代化（開発）と聞くと、自然が失われる不安を感じる町民も少なくありません。しかし、独歩の思想を土台に「あえて武</p>	<p>東京都の「多摩のまちづくり戦略」において、多摩都市モノレール延伸部については、「新しい暮らし・働き方のモデルとなり、多様な都市機能が人を呼び込み、緑の恵みを最大限に活かしたまち」を地域の将来像に定めています。その中で、景観・土地利用については、まちの風景や狭山丘陵の眺望が人々を魅了し、引き付けることをポリシーとして、駅も含めて、町の景観をトータルデザインすることを取組の方向性としています。</p> <p>いただいた意見についても、緑をいかした拠点整備と捉え、町のトータルデザインを踏まえて整備を検討します。</p>

	<p>蔵野の原風景を再生・保護しながら開発する」という姿勢を示すことで、町民の深い共感と支持を得ることができます。また、それは気候変動対策（ヒートアイランド現象の抑制）という計画の課題解決にも直接的に貢献するからです。最新鋭のスマート農業やインキュベーション施設と、武蔵野の原風景が融合した景色、この「瑞穂にしかない風景」こそが、都市競争力となり、50年、100年先まで愛される町の風景になると確信しております。</p>	
6	<p>賑わい創出について P3、P20</p> <p>賑いを創出する仕掛けがもっと必要ではないかと思えます。計画では雇用者・来訪者・地域住民の交流促進によりとなっていますが、どのような交流が出来るのかはつきりしません。まず雇用者・来訪者がどの程度増えるのか、そしてモノレールの乗降客どの程度になるかが問題です。通勤・通学を除いて、この駅を目的として来る人を増やすことが必要と思えます。現状ではジョイフルでの買い物が一番寄与するかもしれません。しかしさらに他に人を引き付けるものが重要です。例えば親子でくつろげるような緑多い公園とか、横田基地を離発着する飛行機を望遠鏡で見られる展望台だとか、スケートボードやボルダリング等近郊にはない規模の練習場等々。これらの案を出すには地域の事をよく知った人からのヒヤリングも重要ではないかと思えます。</p>	<p>本計画は、「多摩都市モノレール延伸を契機とした瑞穂町まちづくり基本計画」の（仮称）No. 6 駅周辺のまちづくり構想における産業近代化拠点整備計画のうち、イノベーション創出ゾーン、産業育成ゾーン、農用地活用ゾーンについて要件等を定めるものです。にぎわい創出に繋がる取組については、今後、拠点全体の計画策定において検討しますが、近隣大型商業施設等との連携も視野に、多くの人が集い、交流し、にぎわいが生まれるように検討を進めていきます。</p>

7	<p>地域体育館の設置 P6</p> <p>近隣の市町を見ても体育館は一つで、域内の中央辺に設置されています。瑞穂町においても現在は町の中央に1つあります。現在の中央体育館の老朽化ための更新であれば、NO. 6 駅の辺では武蔵野、長岡、元狭山地区からは遠く利用しづらくなります。ここに設置すべき必然性がなければ、再考すべきではないでしょうか。</p>	<p>本計画は、「多摩都市モノレール延伸を契機とした瑞穂町まちづくり基本計画」の（仮称）No. 6 駅周辺のまちづくり構想における産業近代化拠点整備計画のうち、イノベーション創出ゾーン、産業育成ゾーン、農用地活用ゾーンの要件を定めるものです。</p> <p>地域体育施設については、今後、別途検討を進めていきます。</p>
8	<p>近代化拠点設備 P6</p> <p>イノベーション創出、産業育成、農地活用の各拠点設備の設置、管理、運営はどこがするのでしょうか。多摩地域の拠点施設であり、瑞穂町のみならず多摩広域で活用すべき施設かと思えます。このような理由からこれらの設備は東京都が設置、管理、運営すべきと思えます。もしそうでなく町がするとしたら相当の町財政の負担になり、モノレール延伸によるまちづくりを町内全域に波及させると言っていることが難しくなるのではないかと心配です。</p>	<p>施設設置については、ご意見のとおり、瑞穂町のみならず多摩広域で活用すべきと考えています。このため、官公庁や民間企業、学校等、多様な関係者の参加を促しながら、多角的に財源や運営スキームの検討を進めていきます。</p>
9	<p>スマート農業関連 P6, P10, P11P31、P32、P33、P34、P36、P45</p> <p>瑞穂町農業振興計画は文字通り農業を振興するための計画でありそれが前提になっているが、瑞穂町の農業の将来を考えた時、まず町づくりの観点から農業を考える必要があるのではないのでしょうか。瑞穂町の農業の位置を考えた時、農地面積では基地と狭山丘陵を除いた瑞穂町の面積の約1/3を使い、生産金額では製造品出荷額</p>	<p>ご意見のとおり、市街化調整区域は町の面積の約半分以上を占め、そのうち3分の1が農業振興地域に当たるため、多摩地域でも農家戸数は多い状況にあります。しかし、農業従事者の高齢化や担い手不足から遊休農地や耕作放棄地などの問題も出てきており、生産金額も6億円程度という状況です。</p>

約6000億円の1/1000の約6億円、農業従事者は300人程度家族を含めても600人、町民の2%にも及びません。

販売農家では1%にも及びません。このような農業の現状考えると、スマート農業等に投資するのが町の発展、町民の幸せのために必要なのかよく考える必要があると思います。もしスマート農業拠点を進めるのであれば、総合的に見て町の発展や町民の幸せに寄与することを詳しく説明した方が良いでしょう。

さらにスマート農業とはどのようなものなのか、この地域の農業に適用できるのかよくわかりません。実際に農業関係者も理解できているのでしょうか？適用できる農業規模、適用品種、採算性、必要知識等々事例研究をし、この地域で導入可能という目処が立っていればよいのですが、これまでにそのような説明はなかった様に思います。もしそのような事例研究やそれによる整理ができているなら説明の機会を作るべきかと思います。

別の観点からスマート農業をとらえることもありかとお思います。それは製造業と連携し、スマート農業支援産業で製造業の振興を図ることです。スマート農業に必要な管理システムや支援施設、器具等の開発、製造を行い、広く国内外に販路を広げることです。その成果を瑞穂で適用できれば活用し、又開発実験用に農地を従来より高価に貸せれば農家も喜ぶのではないのでしょうか。

一方、農業には安全で新鮮な農作物の供給だけではなく、心身のリフレッシュや観光効果など多様な役割を持っています。

そうした中、生産と所得が増大するやりがいのある農業、人材を育てる持続可能な農業、地域の交流が生まれ地域とつながる農業を目指す上で、農業振興に寄与する施設が必要です。

このため、多摩地域の中でも農地が多い特徴を生かして、事業を展開するため、産業近代化拠点に農用地活用ゾーンを位置付けました。

また、今回の主要な取組である「インキュベーション・交流拠点・ワークプレイス」、「研究開発拠点」、「スマート農業実装拠点」が有機的に連携して事業を展開することで、例えば、スマート農業と製造業の掛け合わせなど、農業分野の強みと工業分野の強みを掛け合わせ、業際領域の開発やPRにより好循環を創出する拠点の役割を担うことを想定しています。

<p>10</p>	<p>ヒアリング P20、P22 学識経験者 そこに集まる人への魅力を考えるべきに同感。(1.での意見)このようなことは地域を知った人の意見が重要。工業に重点を置くことがポイントに同感(4.での意見)人材育成の観点から・・・瑞穂町には教育機関が瑞穂農芸高校くらいしかない。大学等の教育機関との連携事業を増やし、密な関係を構築し、瑞穂町に関心を持つ若者を増やす努力がいないのではないのでしょうか。できれば工業高校とか大学の誘致が出来れば町の活性化に大きく寄与すると思う。 金融機関・商工会・企業・農業 現在でもやれる問題も多くあると思う。なぜ現在できていないのかを考えることが必要で、それが出来なければいつまでたっても変わらないのではかと感じた。いろいろ課題に対し取り組んだが、どうしてもこの点がどこどこの協力が得られなければ解決できないとか、その辺まで突き詰めてないとこれからは程遠い様に思える。 まとまった土地が出てくれば・・・農地の市街化について動いたか？ コーディネートできる人がいない・・・探したのか 技術継承が出来てない・・・継承支援構築を誰が推進するのか具体的な動きは スマート農業の費用対効果は・・・計画者に納得でき</p>	<p>ヒアリングの結果については、立場の異なる様々な関係者から聴取したものであり、現在の課題を捉えるため重要なものです。 ヒアリングでは、これまで様々な関係者が課題と感じているものの解決策が見出せていない内容を捉えています。 今回の拠点整備事業のリーディング事業は、ヒアリングの結果や検討委員会における議論を踏まえ、課題に対する課題解決方策として取りまとめたものです。 また、教育機関の誘致については、現在、考えておりませんが、34ページ「(6)西多摩地域への産業支援の展開イメージ」に記載のとおり、大学等の教育機関との連携しながら、瑞穂町に関心を持つ人を増やし、産官学が連携し、町内及び西多摩地域の産業振興につながる施設として計画を進めていきます。</p>
-----------	---	--

	<p>る説明を求めたか 瑞穂野菜のブランディングがはかれれば・・・農業関係者でブランディングについて話し合ったことがあるのか等々今やれることができないようでは今後も何もできないと思う。</p> <p>まずこのような課題に対ししかり取り組める組織をつくらなければ、個々が問題だと思っているだけで何も解決はしていかないと思う。この組織づくりの部分では町がイニシアチブをとってもらう必要があると思う。</p>	
11	<p>瑞穂町は、製造業および運輸業・郵便業の割合が東京都平均を大きく上回っており、産業拠点としての機能が強い町です。</p> <p>一方で、鉄道やバスなどの旅客交通は十分とは言えませんが、道路交通の面では国道16号線、都道5号線が通り、圏央道インターチェンジや中央自動車道八王子インターチェンジにも近接しています。広域道路ネットワーク上の重要な結節点であることは、町の大きな特性であると考えます。</p> <p>また、町内および周辺自治体には大型商業施設が立地しており、多くの来訪者が自動車ですべて町周辺まで来訪、あるいは通過している状況があります。</p> <p>本計画において、モノレール駅利用者のみならず、自動車利用者も含めた「広域交通結節点」としての機能はどの程度想定されているのでしょうか。</p>	<p>本計画は、「多摩都市モノレール延伸を契機とした瑞穂町まちづくり基本計画」の（仮称）No.6駅周辺のまちづくり構想における産業近代化拠点整備計画のうち、イノベーション創出ゾーン、産業育成ゾーン、農用地活用ゾーンについて要件を定めるものです。</p> <p>交通結節点については、今後検討しますが、多摩都市モノレールの利用及び産業近代化拠点の利用者等を考慮してバス、タクシーを利用するための交通広場や、駐車場・駐輪場の設置を検討します。</p>

12	<p>道路交通との連携を強化する具体的な施策（パークアンドライド、広域駐車場整備、物流機能との接続など）は検討されているのでしょうか。</p>	<p>モノレール延伸の効果を最大限に生かすため、地域公共交通計画に基づき、乗り継ぎのしやすさの向上やバス・タクシーの利便性維持・向上に取り組みます。</p>
13	<p>広域から人を呼び込む機能として、いわゆる「道の駅」的機能や地域産品の発信拠点などの整備可能性については、どのように位置付けられているのでしょうか。</p>	<p>本計画は、「多摩都市モノレール延伸を契機とした瑞穂町まちづくり基本計画」に基づき検討を進めていますが、道の駅については、検討していません。また、地域産品の発信拠点などの整備可能性については、基本計画の農用地活用ゾーンにおいて「新たな農業振興のための拠点（農産物販売等）」を位置付けており、今後検討します。</p>
14	<p>産業近代化拠点の構想についてです。 農業と工業の双方を包含する意欲的な構想であると評価しますが、その実現性は「中核機能」と「運営主体」の明確さに大きく左右されると考えます。</p> <p>本拠点の中心となる運営主体は、具体的にどのような主体を想定しているのでしょうか。民間主導でしょうか、第三セクターでしょうか、それとも公的関与を想定しているのでしょうか。</p>	<p>本計画のP40(8)今後の進め方において、サウンディング調査や公募型プロポーザル方式による事業者募集の実施を想定しています。詳細については、今後検討します。</p>
15	<p>農業と工業の両分野を担う場合、それぞれの投資規模や収支計画について、どのような事業スキームを想定しているのでしょうか。</p>	<p>投資規模や収支計画の検討については、本計画P302.新産業導入・育成拠点形成の方針に記載のとおりです。詳細については、今後検討します。</p>
16	<p>拠点における「核」となる機能は何であると整理されているのでしょうか。研究機能、加工機能、流通機能、教育機能のいずれに重点を置く計画でしょうか。 方向性として、農業分野に重点を置いた拠点形成も検討</p>	<p>本計画は、「多摩都市モノレール延伸を契機とした瑞穂町まちづくり基本計画」に基づき検討しています。産業近代化拠点は、町の工業力の持続可能性を高める機能と併せ、</p>

	<p>に値するのではないかと考えます。</p> <p>瑞穂町は大消費地に近く、道路インフラも整っており、農地集約が進んだ場合には大きな競争力を持ち得る地域条件を備えています。</p>	<p>農業振興地域を含んでいる武蔵地区において、良好な農用地を生かして拠点を整備します。</p> <p>その上で、リーディング事業として、スマート農業の実装拠点として、都心部へのアクセス性が良い立地を生かし、西多摩エリアや全国の生産拠点へ展開するショーケースの役割をもったスマート農業推進事業。専門家とのネットワークを構築し、技術マネジメントを行うビジネス経営支援事業。インキュベーション・交流拠点・ワークプレイス。研究開発拠点等を実施する施設運営事業を掲げています。</p>
17	<p>農地集約を見据えた先進的農業拠点としての位置付けは、本計画ではどのように整理されていますか。</p>	<p>農地集約について、本計画では対象としていませんが、リーディング事業として、スマート農業推進事業を掲げています。拠点が、スマート農業のショーケースの役割を担うことで、波及効果として農地集約に影響する可能性があります。</p>
18	<p>東京都農林総合研究センターなど外部研究機関との連携、あるいは大学等の研究・実習フィールドとしての活用可能性について、具体的な協議は行われているのでしょうか。</p>	<p>町では、これまで外部研究機関や大学等への視察や意見交換を行っています。</p>
19	<p>町内に所在する瑞穂農芸高校との連携強化や、人材育成機能を拠点内に組み込む構想は検討されていますか。</p> <p>計画を実効性あるものとするためには、「誰が」「何を核に」「どのような事業スキームで」運営していくのかを、より具体的に示すことが重要であると考えます。</p> <p>本計画が、単なる土地利用計画にとどまらず、持続可能</p>	<p>瑞穂農芸高校との連携強化や、人材育成機能を拠点内に組み込む構想については、34ページ「(6) 西多摩地域への産業支援の展開イメージ」に記載のとおり、町内外の学生と連携を強化し、ローカルビジネスとしての HUB 機能とスマート農業の実装拠点とも相互に連携を図ることで多面的に西多摩地域の産業を支援することを展開イメージとしています。</p>

<p>な産業拠点として機能するための具体的な戦略について、より明確な説明を求めます。</p>	<p>また、本計画については、「何を核に」事業をすべきかを検討しています。「誰が」「どのような事業スキーム」で実施すべきかについては、本計画におけるP40(8)今後の進め方に記載のとおり、本計画に基づき、サウンディングやプロポーザルを実施し、決定します。</p> <p>なお、土地利用等については、今後、必要な土地面積等の諸条件を整理して検討します。</p>
--	---